

## ま え が き

平成25年6月14日に閣議決定された、第2期教育振興基本計画前文では、教育こそ、人々の多様な個性・能力を開花させ人生を豊かにするとともに、社会全体の今後の発展を実現する基盤であることが述べられています。一人一人が生涯にわたって能動的に学び続ける上で必要な力を養うために、今まで以上に教育が重要であることが示されているといえます。このように教育へ大きな期待が寄せられる中、教育の成否を握る教員の資質能力向上は、一層重要になると考えます。このような資質能力の向上を目指す上で効果をあげているものの一つがこの研修員研修です。

本県における長期研修員制度は、昭和50年に始まり、昨年度まで県内各地方に送り出した研修員は延べ501名に上ります。研修員を経験した教員は、各学校・地域の中核的な存在として活躍し、本県教育の充実・発展に大きく寄与しています。本年度の研修員は、「指定研究」「一般研究」に分かれ、真摯に研修に取り組んできました。

ここに、平成25年度和歌山県教育センター学びの丘研修員の1年間にわたる研修・研究成果の一端を「平成25年度研修員研究集録（第39集）」として刊行いたしました。研究成果は、本年2月2日に開催した第4回和歌山教育実践研究大会において報告したところです。各学校においては、この研究集録とともに、当センター学びの丘のホームページに掲載している関連資料も併せ、これからの教育実践の参考として活用いただければ幸甚です。

最後になりましたが、研修員の研修に際して、御支援・御協力をいただきました学校及び関係教育機関の方々に、心からお礼を申し上げます。

平成26年3月

和歌山県教育センター学びの丘  
所 長 楠 義 隆